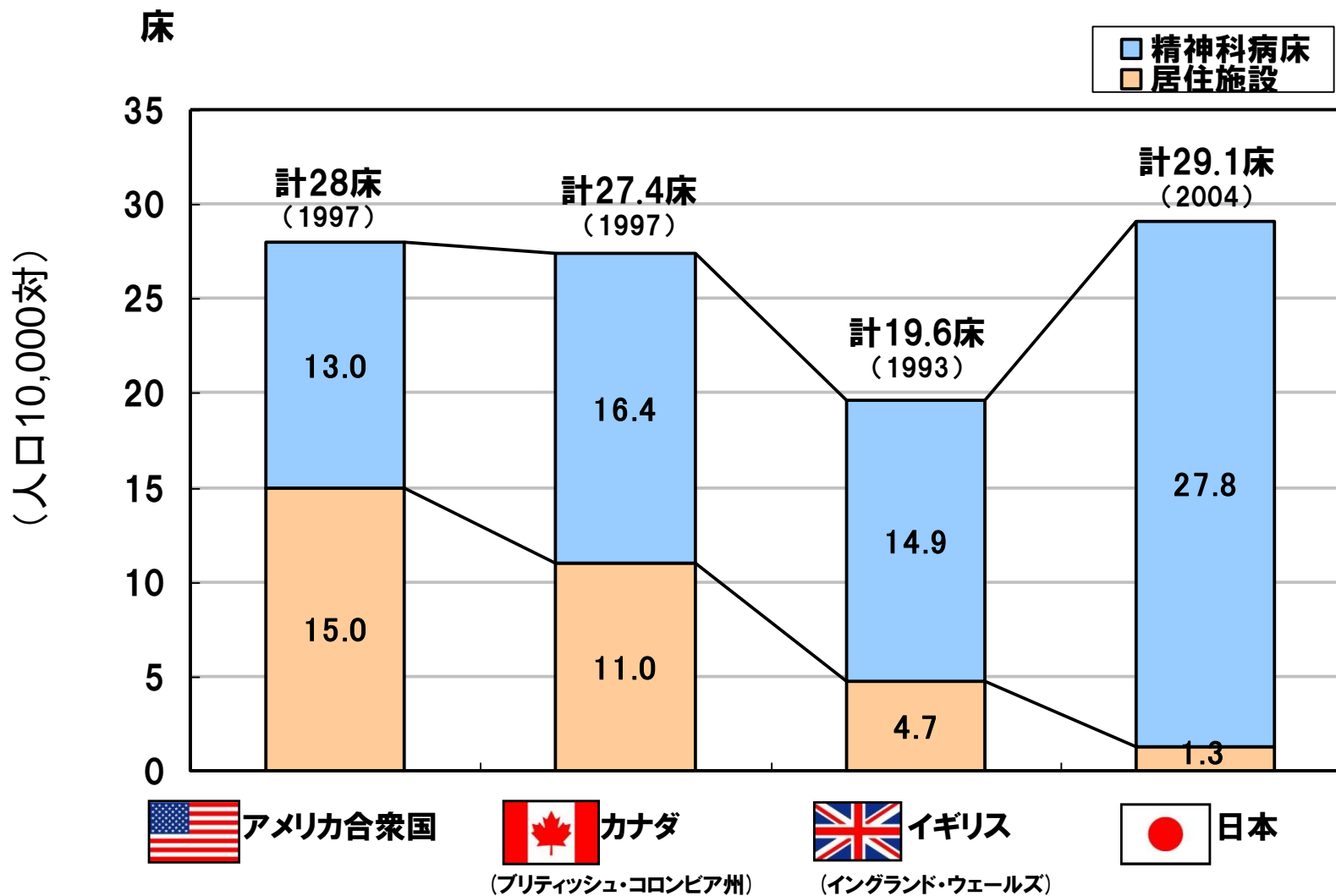
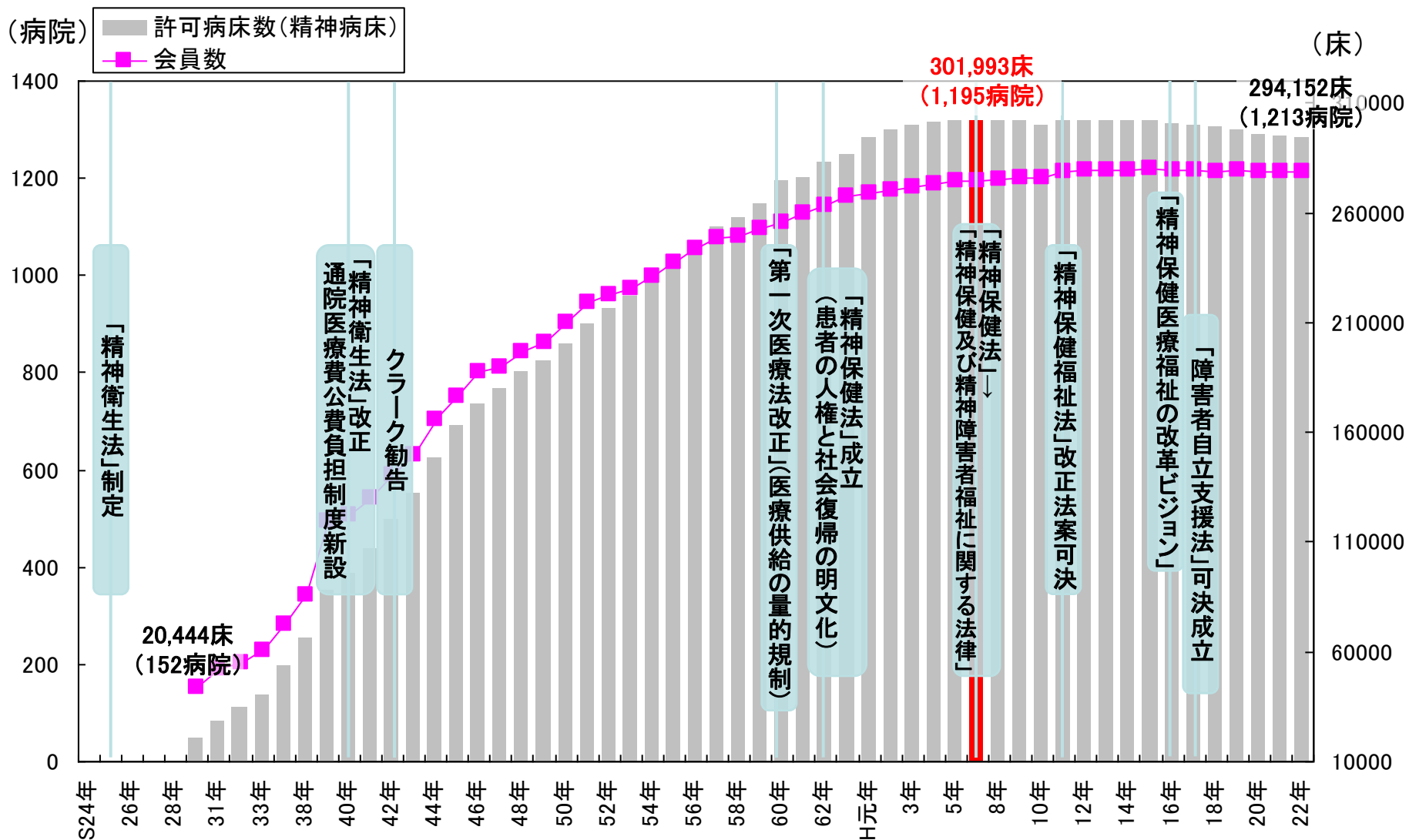


諸外国における精神科病床、居住施設入所者数とわが国の比較



日精協 会員病院数と精神病床許可病床数の変遷



※S24年～28年データなし

(日精協 会員名簿調査)

クラーク勧告

1967年11月から1968年2月までWHOに日本政府が要請してデービッド・H・クラーク博士が来日し日本における地域精神衛生についての報告書をまとめた。

クランク勧告

精神病院

患者の生活条件が寒々としており、超満員の
ように思われたが数人の患者の家庭訪問をし
た後になって、病院のほうが患者の住み慣れ
た家庭の生活条件に比べて良好であった。

給食は良好であるように思え、患者たち
も身体的に健康に思えた。

老人はごくわずかしかなかった。

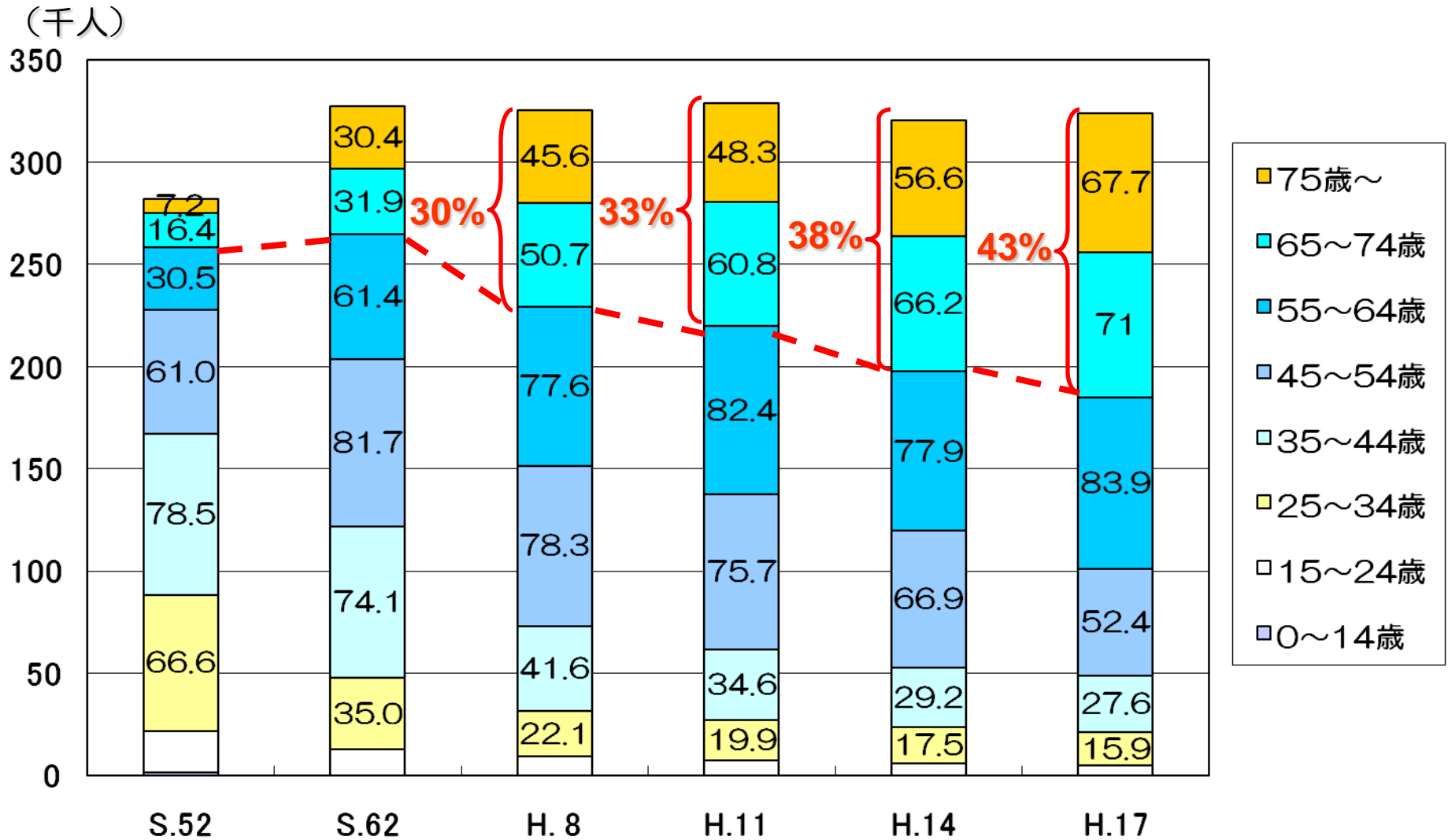
(60歳以上は4%)

クラーク勧告

日本と西洋の精神病院の顕著な差は日本では老人の患者が少ないことである。精神病院のたった4%が60歳以上であるのに対し、英国では約50%である。

現在のように慢性患者が累積し続け現代医療で生かされていけば、1980年から1990年代において日本の精神病院でも老人患者の数は非常に増加するだろう。このことは遠い先の問題に見えるだろうが、何らかの対策をすぐに行わなければ大変なことになるだろう。

入院患者の年齢分布の推移



資料：患者調査